

ぜん きょう じ  
善巧寺報

2 月号

月刊◎善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号  
TEL 048(734)7660  
榎本明覚



▼二〇二〇年二月一日▲

●梅●  
万葉の時代、梅は春を告げる花として考えられていました。正月には梅の花の歌を詠む梅花の宴が催され、昨年新年号として定められた「令和」はその一首を出典としております。

季節の花

～ 梅と富士 ～

# 定例法座

毎 月 十 一 日

◎二月十一日(祝)午後二時

～四時

於 善巧寺 法輪会館

## 「仏の名をとねえる意味」

『病室で念仏を唱えないでください』(原作:こやす珠世)というドラマがTBS系で放映されています。医者にして僧侶である主人公が、命を救い、心を救うことを目指して奮闘する内容だそうです(任職はまだ観ていませんが)。本当の意味で命を救うという事は、死に怯え、行いに惑い、むさぼり、怒り、というこの心が救われねば、折角頂戴した命を無駄に浪費した、とも言えるのではないのでしょうか。そんな千々に乱れる私の心に一本筋を通して下さるのが念仏であります。どのような心持ちであろうとも汝を捨てぬ、という仏の大慈悲を聞かせて頂き、その仏の御名が口から出てくる、という妙味をDVDの二話話で一緒に味わってみましょう。

※今回は法輪会館で行います。

# みほとけ会月例会

★ポジティブコキヨロ

DRORUN★

◎三月一日(日)午後一時開場

二時四十五分

於 宮の坂レンタルスペース

(東急世田谷線宮の坂駅下車徒歩一分)

会費 五〇〇円

『なぜ人は

心配ばかりしているのか』

新型コロナウイルスが流行する、株価が下がる、老後の資金が足りない、地震だ、雷だ、台風だ、と全くもって心配の種が尽きない私たちがであります。何か問題が一つ解決し、その時だけは「ああ良かった」とお祝いしたくなるのですが、それも長くは続かず、また違う問題が浮上しては心配する、そんな堂々巡り人生。お釈迦様は「諸行無常」と明確に迷いを断ち切られました。私たちはどうも愚図愚図としております。さて、心配事が無くならないのは私たちの

脳の働き「動くゴールポスト」(脅威を退けると新たな脅威をいち早く発見しようとする脳が働き、それによって当初設定し目指していたものがどんどん変化していつてしまふ事に起因しているというハーバード大学の研究があります。自分の心の癖を客観的に見直し、限りある人生、少しでも安心充実した時間が多く持てるよう考察してみましよう。

※一月例会は新年会としてたこ焼きパーティーを開催。精進きのこ焼きも作りましたが、タコ入りの方が人気でした(笑)。今後も楽しい企画を開催いたしますので、是非ご参加下さい。



◆◆ 春日部だより ◆◆

◎去年はインフルエンザ、今年  
は新型ウイルス性肺炎という事  
で心配も伝染蔓延しているよう  
です。近くのドラッグストアで  
もマスクが商品棚から一斉に無  
くなり、消毒液などは「お一人  
様一個まで」という張り紙が貼  
られています。今までの情報か  
らすると、潜伏期間が長く、軽  
症または無症状の人が全く気づ  
かぬまま他人に感染させてしま  
う事もあるそうで、自己防衛以  
外、良策は今のところないよう  
です。帰宅後は手洗い目洗いう  
がい、咳が出る人はマスク着用、  
手すりやつり革は手袋して持つ、  
十分な睡眠・栄養補給・体を冷  
やさない等で免疫を高める、く  
らいが対処法でしょうか。交通  
の発達で世界が近くなったとい  
う事は、遠方の感染症がやって  
くる速度も早くなったという事

なのですね。

◎十一日の定例法座は、本堂向  
かって左手の法輪会館で行いま  
す。まこと仏教婦人会バザーも  
行いますので、皆様のご協力を  
お待ちしております。

◎ビートルズ、C.D. サリンジャ  
ー、ブルース・リー近くはアッ  
プルのステイプ・ジョブスに  
強い影響を与えたと言われる、  
東洋思想・禅浄土仏教を英語圏  
に解説紹介した鈴木大拙、そし  
て大拙氏と同級生であり、独自  
の哲学(京都学派)を築いた西田  
幾多郎のオペラが生誕百五十年  
を記念して製作されるそうです。  
残念ながら、東洋思想の特殊性  
を優位性と受け取り戦争に突入  
してしまった我が国の歴史も再  
認識しつつ、今度こそ平和や心  
豊かになるためにこれらを活用  
していかなければいけません。  
「佛教はどの宗派でも、煩惱とか妄念、  
即ち罪業なるものを、敵視しないこと

である。敵視というと妙に聞こえるか  
も知れぬが、つまり煩惱などというも  
のを目の上の瘤のように考えて、これ  
を亡ぼさないと成仏は不可能だとい  
うことにしないのである。煩惱または  
罪業をそのままにして、それを根なき  
ものにするのである。ことに他力教で  
は、罪業なるものに向うにまわしてそ  
れと自力づくめに、闘争しようとしな  
いのである。罪業を、いわば跳躍台に  
して、それで浄土へと一飛に飛び込む  
のである。」 『妙好人』(鈴木大拙)

